雑誌掲載論文紹介

ＬＮＧ　－スポット取引の拡大とその背景－[1]

戦略・産業サブユニット総括　研究理事　森田 浩仁

わが国の LNG 輸入量は 2008 年、前年を 244 万トン上回る 6,926 万トンとなった。04 年には対前年比マイナス 167 万トン、05 年は同 127 万トンとプラスに転じ、06 年 454 万トン、07 年 425 万トンと大きな伸びを示したが、輸入量の伸びにもブレーキがかかったようだ。

◎貿易統計にみる特徴

わが国は 08 年、アルジェリア、エジプト、赤道ギニア、ナイジェリア、ノルウェー、トリニダード・トバゴからスポット、短期契約にて 604 万トンの LNG を輸入した。前年は 318 万トンであったので、ほぼ倍増である。

わが国の輸入量は 06 年からの 3 年で 1,000 万トンも拡大した。これらスポット供給なしに、需給バランス維持は困難であったということだろう。ただし、価格は平均を 30～40%も上回った。

アルジェリアを除き、新興 LNG 供給国であることが目に付く。赤道ギニアは 07 年、ノルウェーは 08 年に生産を開始したばかりだ。

◎何故、大量のスポット供給が可能か

かつて LNG は、オーダーメイドプロジェクトと呼ばれた。需要の規模に合わせてプロジェクトを設計するため、需要と供給は原則的に同量であり、大量のスポット玉など生まれる余地などなかった。

しかし、世界の LNG スポット取引は、2000 年の 557 万トンが 07 年には 3,383 万トンにまで拡大した。これを可能としたのが、あらたなビジネスモデルの普及にある。

プロジェクトの推進者が自ら LNG を引き取り、自らマーケティングを行う。あるいは、赤道ギニアで生産される LNG（340 万トン/年）は、すべて BG（英ガス会社）に販売される。LNG の長期契約にはつきものの仕向地規制は付随しない。BG は世界の市況をにらみ、LNG の転売先を選択できる。

つまり、価格を指標とした裁定取引であり、量的リスクは大容量の地下貯蔵能力を有する米国でとる。

新興供給国、あるいは新規プロジェクトの多くが、このモデルを取り入れたことにより、スポット取引は急拡大した。

[1] 本稿は、「電気新聞」2009 年 2 月 25 日に掲載された論文について転載許可を得て掲載しました。

◎世界金融危機の影響は

新モデルにも弱点がある。需給が緩むと、価格リスクに晒される。

アジア太平洋では今後数年で 2,600 万トン、中東・中南米で 5,800 万トンもの生産能力が追加される。5,800 万トンの多くが新モデルにて市場を探る。

しかし、米国発経済危機は世界で猛威をふるい、わが国でも大口向け都市ガス、電力需要に急ブレーキがかかった。

量的リスクをとるはずの米国も、LNG 供給量は 07 年の 1,560 万トンをピークに、08 年 740 万トン、09 年 870 万トン、そして 10 年も 1,065 万トンにとどまると予測する（09 年 1 月、エネルギー省発表）。需要は横ばい、供給面では非在来型天然ガスの生産が好調であるためだ。

行き場の定まらない LNG 船は、従来の長期契約に舵を切り戻すのか。あるいは、さらなる進化を目指すのか。

輸出国別 LNG 輸入量と価格

	2007年		2008年	
	輸入量（万トン）	価格（円/トン）	輸入量（万トン）	価格（円/トン）
アルジェリア	60	61,593	84	94,795
オーストラリア	1,207	42,037	1,198	61,370
ブルネイ	644	38,381	618	69,508
エジプト	122	66,305	166	87,249
赤道ギニア	27	58,913	113	87,890
インドネシア	1,359	51,427	1,413	62,155
マレーシア	1,327	47,209	1,313	68,153
ナイジェリア	66	63,924	178	91,655
ノルウェー	―	―	12	94,597
オマーン	362	48,771	319	65,300
カタール	817	49,510	820	71,681
トリニダードトバゴ	43	64,301	51	86,563
UAE	557	43,587	557	60,597
米国	89	36,703	73	41,320
合計（平均）	6,682	47,005	6,926	67,190

（出所）財務省「貿易統計」より作成

お問い合わせ：report@tky.ieej.or.jp